

## 12月定例議会一般質問

### ※予算執行に対する執行部のマネージメントを問う

#### 質問一回目

9月定例議会においての連合審査の結果、平成26年度決算の認定について全員賛成のもと、認定されました。一般会計の総務民生常任委員会が所管する内容に付託された案件に対して、副委員長として一言提言させて頂きました。その提言内容は後で述べさせていただきますが、まず一回目の質問を行います。

平成27年度の当初予算、補正も含め現在12月時点での執行率はどのくらいの数値に成っているかを伺う？

答弁者 (総務課長 太田達也)

12月11日現在における平成27年度一般会計の予算額に対する執行率  
(現年分) 支出負担行為済額 46.63% ・ 支出済額 36.20%  
(繰越明許費分) 支出負担行為済額 61.64% ・ 支出済額 32.01%  
(合計) 支出負担行為済額 48.36% ・ 支出済額 35.73%  
以上の執行率と成っております。

#### 質問二回目

やはり、執行率が低いと言わざるといけませんね、27年度末までに予算執行が適正に執行されるか不安に思うところです。

何故このような事を言わざるを得ないか、過去2年の決算の状況を精査してみると多くの不用額が見受けられる。果たしてこれが適正に予算を執行していると言えるか否か、答えは明白である。

適正に執行していれば多くの不用額が出る事はあり得ませんからね。

問題は、執行率が低い要因は何か？と言う事であろうかと思う。  
例えば、事業自体の進捗が遅延しているとか、当初の予算の査定が甘いのでは

ないか？執行状況のチェックがしっかりと行われていないのではないか等、様々な要因が考えられる。予算の執行状況につきましては、監査委員がおりますので定期的に監査は行われております。また不用額には様々な要因がある事も十分理解しているところです。しかしながら結果として過去2年間は多額の不用額が出ている。最終予算額の3.0%以上、いや約4.0%に近いが、いかがなものでしょうか？当町の予算規模からすると約1.0%前後で程度で抑える事が妥当であると考えます。

執行部はその為にはあらゆる方法も検討して、マネージメントすることが重要である。執行部は結果として直近2年間の不用額が多く成ってしまった原因をどのように分析し、検証しているのかを問う？

**答弁者** （総務課長 太田達也）

平成25年度、平成26年度の直近2年間の決算状況につきましては、両年度とも議会に予算の専決処分の承認を得ておりますので、現年度分の予算執行率は、従来とほぼ同率でありましたが、繰越明許費分については、平成25年度の執行率が83.3%、平成26年度の執行率が75.6%であり、繰越事業の執行率が低かったことが、不要額が多くなった主な原因となっております。

繰越事業の主なものは南海トラフ地震関連事業であります。このうち住宅耐震化事業については、1棟でも多くの耐震化を進めるため国・県の補助枠の上限額を予算化して取り組んでいますが、申請数が少なく不用額がでております。また、南海トラフ地震関連事業のハード事業は多大な財政支出が必要なため、財政基盤が脆弱な当町においては緊急防災・減災事業債や高知県防災対策加速化交付金など国・県の有利な財源が確保できるうちに事業化し、また、その緊急性のため可能かぎり早急に工事を完成させる必要があったため、平成24年度に緊急防災・減災事業計画を立て予算化して事業を進めております。

しかしながら、時間的余裕がない状況で事業計画を立てたこともあり、事業を進めるなかで、事業費を精査すると過不足が生じた場合もあり、また事業用地の取得に不測の時間がかかってしまった場合もあります。さらに、東北地方の復興事業をはじめ全国的に、また高知県下においても同様の公共工事が多く重なったため人手不足や資材不足、それに伴う工事費用の急激な高騰などの原因により、予算不足や工事の発注延期、入札の不調となっており、当町においても同様の原因で事業が遅延し、結果的に予算の不要額につながっております。

様々な要因があるとしても、不用額が多く出るとは適切な状況ではありませんので、今後は事業計画、事業費等の予算査定をより精緻に行い、また各事業の進捗状況等の工程管理を厳格に行い、できる限り不用額が生じないようにしていきたいと考えております。

### 質問三回目

執行部は、まず、法令遵守・適正な予算執行が最も重要である。当初予算を議会に提案し、議会はその提案を受け連合審査を行い、執行部との信頼関係を根幹に持ち承認をしているわけですが、最終決算額で多額の不用額が出ると、承認した私達議会としては、立場がない。これは執行部だけの問題ではなく我々議会議員がしっかりと執行状況を把握していないという証でもあります。

私は、議会議員としてこの問題につきましては、監査委員と共に積極的にかかわって行かなければならないと改めて反省しているところです。

何故か、全てが税金であり、しっかりと執行状況を監視しなければならないからである。

一回目の質問の中で提言をさせて頂いたと申しましたが、どの様な提言をしたか申します。当初予算を議会に提案して来たら予算通り適正に執行する。その過程で事業が終了し予算が残ったら補正で返還する。また、予算が足らなければ補正で予算を要求する。このようにメリハリのついた予算執行をすべき。

そして不用額が多額であれば国・県・他町村から当町執行部の資質も問われるし、また、議会も同様である。

他方で「不用額」については、「使いきり予算」を行わず、経費の削減などにより、いわゆる「不用額」を翌年度以降に使えるお金としてとらえている職員もおられるように感じるがいかがなものでしょうか？

私の記憶では、あまり適用されていない法の規定による専決処分。今年度では**27年度第1回臨時議会**で有りました。

承認第1号

平成26年度奈半利町一般会計補正予算第7号の専決処分の承認を求めることについて

予算執行残による不用額の見込み等の計数整理を行い、これらの余剰金により財政調整基金繰入額を113,519千円減額し、**翌年度への繰越金が過大になら**

ないように調整を図ったものです。

前もって把握出来て居る事にはしっかりと対応しようと努力しているが後手後手になっている。繰越金が過大にならないように調整を図ったものです。と言う理由で専決したのに、結果は、26年度決算の多額な繰越額です。

繰越明許につきましても、この繰越明許の性質事態が問題ですけどね・・・足りなければ一般財源から補正で増額は出来る。しかしながら余ったからと言って補正で減額が出来ない。そして不用額には反映されるという厄介な制度ですが、細かく言えばこの繰越明許の査定がしっかりとなされていないことがポイントではないでしょうか？

また、専決処分につきましても過去に色々な問題もあり、平成18年の法改正に伴い現在では、なかなか適用しにくくなっております。

しかしながら専決処分とは、「町村長と議会の関係を調整する手段の一つとして、町村長の専決処分がある。」とも記載されている。私し1議会議員としては、あくまでも地方自治法に定められている、法の規定による専決処分には、議会としても柔軟な対応をすべきと考えております。

あくまでも適正な予算の査定・適正な執行が基本である事には揺るぎがありませんが、その努力の結果として不用額が多くなってしまうような事態が生じる場合の対応策をしっかりと考えて頂きたい。

執行部・議会が理解を深め、信頼関係を堅持し、適正な予算執行を行い双方が不用額を減らす為のあらゆる努力をすべきと考えるが、町長の見解を問う？

## 答弁者 (町長 齊藤一孝)

寺村議員の3回目について答弁を申し上げます。先程からご指摘を受けている予算執行、予算査定等が甘くないか、それと事業の進捗状況の工程管理が問題があるのではないかとのご指摘であろうかと思っております。そのような中で例えば事業が予定通り進んでない、それは繰越明許せざるを得ないという事で多額の不用額が出たという要因であろうかと思っております。

課長からもご答弁申し上げましたが、特に国・県の有利な財源を確保するために、計画的でないことのご指摘と理解しておりますが、事業費の予算の確定した時の問題であろうかと思っております。予算が足りなかつたら繰越明許はなかなか執行していきにくいという事で確かに甘くなることはあります。進捗状況あるいは工程管理をすることによって、これまでの経過の中で、出来るだけ詳細な、

実際必要な財源のための予算を提案できる所でございますが、時間的に余裕が無いというのが、実態であろうかと思えます。

地方創生につきましても、国は補正予算によって突然出てくる。なかなか、当町のスタッフでは厳格というか、しっかりとした予算の査定という積み上げが実態として追いつけてないというのが実態であります。

しかしながら使い切り予算は避けるべきであろうかと、その中でどうしても不用額が出た場合は、議員の皆さんにご理解して頂きたいと考えております。ただ、進捗状況の工程管理というのは、日々、職員の皆さんにも努力をしてもらうように努めており、自分も一緒になって努力しなくてはいけない重要な問題と認識しております。

事業関係におきましては、用地関係が影響してくる。また、現実として、事業費が重なって入札の不調等が土木・建築等も出て来ている。このような状況下での課題として、様々な事態を想定しながら事業も進めていかなければならない。やはり押し迫って事業発注するという事は当然リスクが余計になってくるわけで、出来るだけ早く予算の執行を日々管理することが1番重要と考えております。

非常に忙しい中で始終後回しになり、間際が来てこのような状況になっているのが実態です。不用額につきましても職員と協議しながら適正な予算の執行に努めてまいりたいと思えます。

申し開きばかりじゃなく、真摯に受け止め、より一層努力をしてみたいと考えておりますので、宜しくお願いします。